

04 目標値設定

以下のKGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標）とKPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）から将来像の達成度を評価します。

KGI：観光行政に関する町民満足度

将来像：歴史と文化を未来へ 観光が綱ぐふるさとの誇り 与那原 に対応する指標



47.7%
(2024年)



70.0%
(2028年)

KPI①：観光消費額

基本方針1：観光客誘致による地域経済の活性化と雇用創出に対応する指標



約157億円
(2024年)



約170億円
(2028年)

KPI②：観光振興を通じた地域への愛着や誇りの高まり

基本方針2：伝統文化の継承による地域の魅力向上に対応する指標



25.8%
(2024年)



50.0%
(2028年)

KPI③：観光産業におけるCO²排出量

基本方針3：環境保全と再生可能エネルギー活用に対応する指標



1,534t/年
(2023年)



1,304t/年
(2028年)

KPI④：観光地域経営のマネジメント組織の設立及び機能の構築

基本方針4：多様な主体による協働と情報共有を促進し、地域全体で持続可能な観光を推進するための体制構築に対応する指標



未設立
(2024年)



設立
(2028年)

与那原町観光ビジョン 2025-2028 令和7年3月

与那原町観光ビジョン 2025 ▶ 2028

概要版

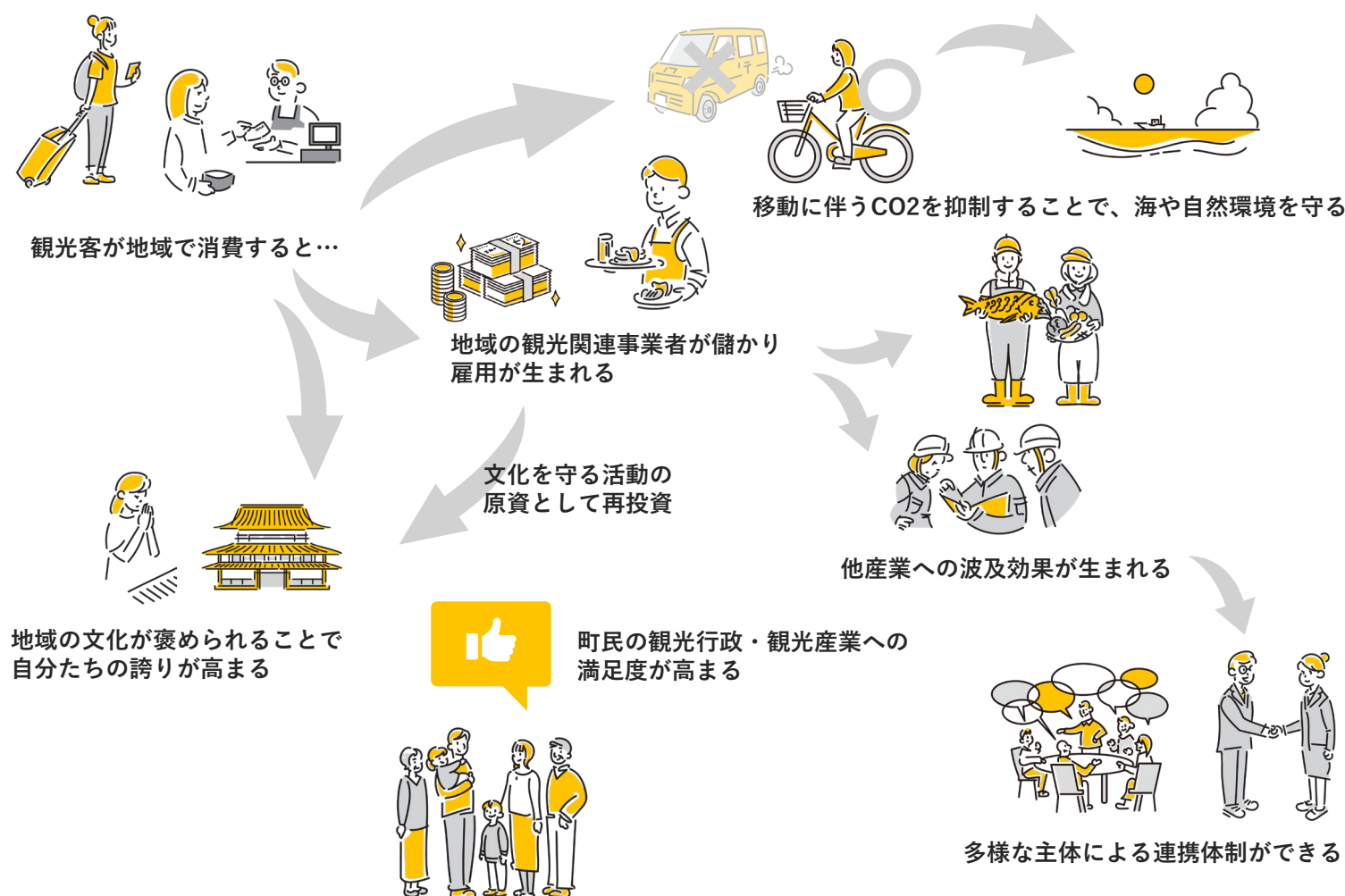
01 観光ビジョン策定の目的

近年、観光は地域経済の活性化や住民生活の質の向上に大きく貢献する重要な要素として認識されています。与那原町においても、これまで交通の要衝・商業のまちとして発展してきた一方、東海岸の豊かな自然や大綱曳関連のイベント、歴史的・文化的資源など、魅力的な観光資源を有しています。

これまでの観光実施計画では、これらの資源や整備を進めている大型MICE施設を活かした様々な施策を展開し、観光客誘致や地域経済の活性化に一定の成果を上げてきました。しかしながら、近年の社会情勢の変化や観光ニーズの多様化、さらには新型コロナウイルス感染症の流行時の経験・教訓などを踏まえ、町民の理解を得ながら観光振興の取組をより一層強化していく必要が生じています。

02 観光産業と町民、他産業との関わり

観光振興によって地域経済が活性化し、雇用創出や税収増加などの効果が期待できます。これにより、歴史的建造物の保存や伝統文化を継承することが可能となり、観光が地域資源を守り後世に綱ぐ役割を担うことができます。



03 与那原町観光の将来像と主な施策

総合計画で掲げる町の将来像や国の観光政策におけるトレンド等を鑑み、以下のように与那原町観光の将来像を設定しました。

歴史と文化を未来へ 観光が綱ぐふるさとの誇り 与那原

将来像の実現に向け、これまでの取組の延長線上として既存の強みを活かしながら、未解決の課題や新たに発生した課題に対応していきます。
その際の方向性として、国の「日本版持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）等の構成を参考にしつつ、
以下の４つの基本方針（１経済、２社会文化、３環境、４しくみ）に基づき施策を体系化します。
なお、右記の二次元コードから詳しい情報をご覧ください。



＼ 本編はコチラから /

基本方針１：経済（MICE・スポーツ）



与那原町観光大使の任命

施策1-1 よなばるブランドの再構築

本町の県外における認知度は20%と低い状況です。ブランド化を図る上で、データ収集に基づき観光客ニーズの把握に努めます。

→ 本編p33

施策1-2 食の魅力創出

ひじきやソデイカPRや町内飲食店との連携による海鮮料理の開発、食のイベント開催を通じて観光客誘致と回遊性の促進を図ることを検討します。

→ 本編p33

施策1-3 スポーツツーリズムの推進

アスリート利用やスポーツ合宿を誘致し、本町でトレーニングするアスリートによる地域スポーツ教室・イベント等、地域や多分野への還元を狙います。

→ 本編p34

施策1-4 大型MICE施設周辺整備

県策定の「沖縄県マリンタウンMICEエリア形成事業基本計画」などに掲げられている方針を基に、将来的な供用開始を視野に、県の動向を注視しながら検討を進めます。

→ 本編p34

施策1-5 ウォーターフロントの活用

ヨットやクルーザーの愛好家を対象にした陸域でのコンテンツの拡充、クルーズ船の入港も見据え、ニーズ調査等を急ぎます。また、マリンスポーツコンテンツも継続的に推進します。

→ 本編p35

基本方針２：社会文化（大綱曳）



与那原大綱曳

施策2-1大綱曳コンテンツの強化

これまでの一過性のイベントではなく、綱づくり体験を実施するなど、複数回来訪することを想定した仕掛けづくりをつくります。

→ 本編p36

施策2-2 拝所等文化資源の活用

琉球王朝時代、間得大君（きこえおおきみ）の巡礼地として重要な役割を果たした拝所を巡り、歴史と文化に触れることができる“東御廻り”を再現したまちあるきツアー等を展開します。

→ 本編p36

施策2-3 軽便与那原駅舎展示資料館を核とした観光振興

軽便与那原駅舎展示資料館周辺の整備や当時の風景を再現した設備の導入、運転シミュレーターや車両模型の展示などを通じて、鉄道愛好者に向けた魅力ある観光コンテンツの充実を図ります。また、独自性ある鉄道文化の発信拠点としての役割を強化します。

→ 本編p37

施策2-4 産業資源の有効活用

本町の窯業を活かしたアフターMICEコンテンツの造成やその他地域産業の歴史・文化的側面を活かした観光商品づくりを進めます。

→ 本編p37

基本方針３：環境（水路）



東浜水路

施策3-1 まちなみ環境の整備

今後、MICEの開催により観光客が急増する可能性があるため、町民の日常生活を脅かさないよう、受け入れ環境の整備が求められます。それらと観光需要とのバランスを考慮しながら、まちなみ環境の適正な整備を進めていきます。

→ 本編p38

施策3-2 観光客と進める親水空間の高質化

観光客が水質改善に参加できる体験ツアーの検討や、環境保全をテーマとしたイベントを開催し、観光客と地域住民との交流を促進することで地域活性化にも繋がります。

→ 本編p38

施策3-3 観光地美化活動

美化活動参加者のモチベーションを醸成するため、また観光客へのアピールとして、簡易的な水質モニタリングを実施することで取組の成果を可視化し、継続的な取組とすることで、今後も住む人も訪れる人も気持ち良い空間を維持します。

→ 本編p39

施策3-4 再生可能エネルギーの活用

東浜地区製のクリーンエネルギーの活用や施設利用者や観光客の移動を快適にするために、地域モビリティのシェアリングサービスも展開します。

→ 本編p39

基本方針４：しくみ

施策4-1 情報発信

インターネットを活用し、観光ポータルサイトやSNSで積極的に情報発信を行います。また、ガイドブックやリーフレットを作成し、観光客に役立つ情報を提供します。

→ 本編p40

施策4-2 ツーリズムリテラシーの養成

本町での観光体験を通じて、本町への愛着やリスペクトが湧くような観光コンテンツの展開により観光客とともに地域を発展させていきます。

→ 本編p40

施策4-3 観光人材の育成

本町には沖縄女子短期大学が立地しており、大学と協力し地域ニーズにあった人材の育成を推進します。社会人についても育成、強化に取り組みます。

→ 本編p41

施策4-4 インバウンド受入体制の強化

外国人来訪者の受入体制を整備するべく、多言語対応を推進します。また、キャッシュレスやWi-Fi環境の整備の拡充等、外国人旅行者も周遊しやすく消費しやすい環境整備を検討します。

→ 本編p41

施策4-5 マネジメント体制の検討

リーダーシップとマネジメントの双方を担う観光マネジメント組織の設立や機能について具体的な検討を進めます。また、観光危機管理の取組を進めるため、体制面も検討します。

→ 本編p42

施策4-6 広域連携

他市町村や他組織と連携し、東海岸全体の魅力を高め、観光客誘致を目指します。また、MICEプログラムを広域連携を通して開発し、リピーター獲得を目指します。

→ 本編p42



大学生アイデアソン